

地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業） 園田学園女子大学 〈地域〉と〈大学〉をつなぐ経験値教育プログラム 実施計画

平成 25 年度

教育についての取り組み

教育組織

事業推進体制の整備

- 事業を推進する中心となる地域連携推進機構の組織の整備を行う。4月1日に設立されたばかりの機構であり、9名の運営委員で構成されている。実質的に機能させるために、地域連携コーディネーターを2名採用し、地域連携、学内連携についての仕組みを整備していく。
- 連携先である尼崎市、尼崎市教育委員会との統括会議を立ち上げ、月1回定例会議を開催する。統括会議では、地域のニーズや尼崎市の政策課題を共有し、平成26年度の事業計画について協議する。
- 地域連携事業に関心をもつ学生を募り、学生地域連携委員会を組織する。平成26年度以降の地域連携活動やボランティアのコーディネートにあたる人材の発掘と研修を行う。
- 「まちの相談室」の開設を準備する。平成26年度の開設をめざし、学内にスペースを確保し、学生地域連携推進委員とも協議し、地域と学生がコミュニケーションをとるにふさわしいスペースづくりを行う。

教育課程

地域を志向した科目の設置と新しい評価システムの構築

- 平成27年度の教育課程を本事業の推進にあわせて改定するための協議を教学関係委員会（カリキュラム委員会、教務委員会、共通教育委員会、教職課程委員会）で審議し、大学運営会議で議決する。
- 平成26年度「大学の社会貢献」のシラバスについて、連携先である尼崎市、尼崎商工会議所との統括会議において協議する。授業計画を立案し、学外見学施設の調整や連携先の授業担当者の確定を行う。
- 平成27年度に新設する〈つながりプロジェクト〉の学内担当予定者を決定するとともに、連携先との協議に入る。
- 新しい学生評価である経験値評価システムを業者に委託し、システム開発を行う。

研究についての取り組み

- 平成27年度の教育課程を本事業の推進にあわせて改定するための協議を教学関係委員会（カリキュラム委員会、教務委員会、共通教育委員会、教職課程委員会）で審議し、大学運営会議で議決する。
- 平成26年度「大学の社会貢献」のシラバスについて、連携先である尼崎市、尼崎商工会議所との統括会議において協議する。授業計画を立案し、学外見学施設の調整や連携先の授業担当者の確定を行う。
- 平成27年度に新設する〈つながりプロジェクト〉の学内担当予定者を決定するとともに、連携先との協議に入る。
- 新しい学生評価である経験値評価システムを業者に委託し、システム開発を行う。

社会貢献についての取り組み

- 学生地域連携委員を中心に、平成26年度尼崎市立公民館の現代教養講座の企画に提案を行う。
- 本学総合生涯学習センターの公開講座、シニア専修コースの内容の見直し、「まちの支援員」制度について協議する。
- 地域連携推進機構が尼崎市内の各種団体に呼びかけ、「まちづくり解剖学」を開催する。

地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）

園田学園女子大学

〈地域〉と〈大学〉をつなぐ経験値教育プログラム 実施計画

 平成 26 年度 

教育についての取り組み

教育組織

事業推進体制の開始

- 地域連携推進機構の活動を充実させ、定例的に統括会議を開催する。
- 「まちの相談室」を開設し、リーフレット等で尼崎市民に広報し、活動を開始する。

教育課程

地域を志向した科目の新設と新しい評価システムの試行

- 平成 27 年度教育課程を確定する。（学則の変更申請を行う）
- 「大学の社会貢献」を新しい内容で開講する。第 1 学期、第 2 学期に開講し、学期ごとに統括会議で内容を点検し、授業内容を見直す。
- 〈つながりプロジェクト〉について、連携先と具体的なプロジェクト内容の協議を行い、卒業研究や個人研究において、フィールドの実態把握などのプロジェクト研究をスタートさせる。
- 〈つながりプロジェクト〉の内容に即した卒業研究や個人研究における学生の活動やボランティア活動、課外での地域活動を中心に平成 26 年度入学生から経験値評価を適用し、評価システムを試行する。

研究についての取り組み

- 平成 27 年度の学内共同研究の募集にあたり、尼崎市をフィールドにした研究を優先的に採択。〈つながりプロジェクト〉におけるプロジェクト研究をふまえた研究を推奨する。
- 関係省庁や兵庫県阪神南県民局など外部資金の獲得に関して、尼崎市の地域課題に取り組むものを推奨し、申請のため、地域との調整など支援を行う。

社会貢献についての取り組み

- 学生地域連携委員会を中心に、平成 27 年度尼崎市立公民館の現代教養講座の企画に提案を行う。
- 公開講座において、地域課題をテーマとした講座を開講する。
- 「まちの相談室」において、地域資源やまちづくり活動、ボランティア活動の情報を集積し、情報公開を行う。
- 地域連携推進機構が尼崎市内の各種団体に呼びかけ、「まちづくり解剖学」を開催する。研究会の成果に関する報告書を作成する。

地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）
園田学園女子大学
〈地域〉と〈大学〉をつなぐ経験値教育プログラム
実施計画

平成 27 年度

教育についての取り組み

教育組織

事業推進体制の展開

- 地域連携推進機構の活動を充実させ、定例的に統括会議を開催する。
- 地域連携推進機構運営委員会と学生地域連携委員会で「まちの相談室」で活動を推進する。

教育課程

地域を志向した科目の設置と新しい評価システムの運用

- 「大学の社会貢献」の最終プレゼンテーションにおいて、尼崎市、尼崎商工会議所の関係部署に参加による講評を受ける。
- 地域連携演習科目〈つながりプロジェクト〉の開講数を確定し、授業計画を策定し、シラバスを製作する。学内アクティブラーニング2プロジェクト、学外フィールドワーク2プロジェクト、集中講義2プロジェクトの6プロジェクトの立ち上げを目標とする。
- 平成 27 年度入学生全員にから経験値評価を適用し、評価システムを運用する。

研究についての取り組み

- 平成 28 年度の学内共同研究の募集にあたり、尼崎市をフィールドにした研究を優先的に採択。〈つながりプロジェクト〉におけるプロジェクト研究をふまえた研究を推奨する。
- 関係省庁や兵庫県阪神南泉民局など外部資金の獲得に関して、尼崎市の地域課題に取り組むものを推奨し、申請のため、地域との調整など支援を行う。

社会貢献についての取り組み

- 学生地域連携委員を中心に、平成 28 年度尼崎市立公民館の現代教養講座の企画に提案を行う。
- 「まちづくり支援員」養成講座の内容を協議する。
- 「まちの相談室」において、地域資源やまちづくり活動、ボランティア活動の情報を集積し、情報公開を行う。
- 地域連携推進機構が尼崎市内の各種団体に呼びかけ、「まちづくり解剖学」を開催する。研究会の成果に関する報告書を作成する。

地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）
園田学園女子大学
〈地域〉と〈大学〉をつなぐ経験値教育プログラム
実施計画

平成 28 年度

教育についての取り組み

教育組織

事業推進体制の展開

- 地域連携推進機構の活動を充実させ、定例的に統括会議を開催する。
- 学生地域連携委員会と地域連携推進機構運営委員会で「まちの相談室」で活動を推進する

教育課程

地域を志向した科目の設置と新しい評価システムの運用

- 「大学の社会貢献」の最終プレゼンテーションにおいて、尼崎市、尼崎商工会議所の関係部署に参加による講評を受ける。
- 地域連携演習科目〈つながりプロジェクト〉を開講する。学内アクティブラーニング2プロジェクト、学外フィールドワーク2プロジェクト、集中講義2プロジェクトの6プロジェクトを立ち上げる。また、次年度に向けての新規プロジェクトについて募集し、準備、計画する。
- 年度末にプロジェクト研究の成果をふまえた「プロジェクトコンペ」を開催する。連携先、評価委員会委員、市民にも参加を募り、学生の地域課題への提案を発信する。
- 経験値評価システムを運用し、問題点を検討する。

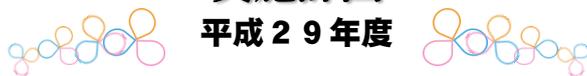
研究についての取り組み

- 平成 29 年度の学内共同研究の募集にあたり、尼崎市をフィールドにした研究を優先的に採択。〈つながりプロジェクト〉におけるプロジェクト研究をふまえた研究を推奨する。
- 関係省庁や兵庫県阪神南県民局など外部資金の獲得に関して、尼崎市の地域課題に取り組むものを推奨し、申請のため、地域との調整など支援を行う。

社会貢献についての取り組み

- 学生地域連携委員を中心に、平成 29 年度尼崎市立公民館の現代教養講座の企画に提案を行う。
- 「まちづくり支援員」養成講座を開講する。「まちづくり支援員」の活動や運用について、統括会議で検討する。
- 「まちの相談室」において、地域資源やまちづくり活動、ボランティア活動の情報を集積し、情報公開を行う。
- 地域連携推進機構が尼崎市内の各種団体に呼びかけ、「まちづくり解剖学」を開催する。研究会の成果に関する報告書を作成する。

地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）
園田学園女子大学
〈地域〉と〈大学〉をつなぐ経験値教育プログラム
実施計画



教育についての取り組み

教育組織

事業推進体制の総括

- 地域連携推進機構の活動を充実させ、定例的に統括会議を開催する。本事業の最終年度であるため、事業終了後の連携の継続について、継続的に協議する。
- これまでの「まちの相談室」で活動を総括し、今後の事業の継続を検討する。

教育課程

地域を志向した科目の設置と新しい評価システムの運用

- 「大学の社会貢献」の最終プレゼンテーションにおいて、尼崎市、尼崎商工会議所の関係部署に参加による講評を受ける。
- 地域連携演習科目〈つながりプロジェクト〉を開講する。学内アクティブラーニング6プロジェクト、学外フィールドワーク3プロジェクト、集中講義3プロジェクトの12プロジェクトを立ち上げる。また、次年度に向けての新規プロジェクトについて募集し、準備、計画する。
- 年度末にプロジェクト研究の成果をふまえた「プロジェクトコンペ」を開催する。連携先、評価委員会委員、市民にも参加を募り、学生の地域課題への提案を発信する。
- 経験値評価システムを運用し、問題点を検討する。

研究についての取り組み

- 平成30年度の学内共同研究の募集にあたり、尼崎市をフィールドにした研究を優先的に採択。〈つながりプロジェクト〉におけるプロジェクト研究をふまえた研究を推奨する。
- 関係省庁や兵庫県阪神南県民局など外部資金の獲得に関して、尼崎市の地域課題に取り組むものを推奨し、申請のため、地域との調整など支援を行う。

社会貢献についての取り組み

- 学生地域連携委員会を中心に、平成30年度尼崎市立公民館の現代教養講座の企画に提案を行う。
- 「まちづくり支援員」養成講座を開講し、第1期の認定を行う。
- 「まちの相談室」において、地域資源やまちづくり活動、ボランティア活動の情報を集積し、情報公開を行う。これまでの情報を総括し、
- 地域連携推進機構が尼崎市内の各種団体に呼びかけ、「まちづくり解剖学」を開催する。研究会の成果に関する報告書を作成する。

◎本事業の最終年にあたり、これまでの取り組みを総括するシンポジウム及びワークショップを開催する。このシンポジウムとワークショップのなかで、継続的に「地域と共に歩む大学」「経験値教育」「まちづくり支援員」等、大学を拠点に地域の活性化に取り組む仕組みを提示する。